

聖公会生野センター設立30周年を迎えて

主教 ルカ 武藤 謙一

聖公会生野センターが2022年に設立30周年を迎えます。この30年間に与えられた多くのお恵みとお導きを心から主に感謝いたします。

聖公会生野センターの歴史を振り返るとき、この活動を始めるのに私たちの背中を押してくださったのは大韓聖公会です。第1回、第2回の日韓聖公会セミナーを通して日本聖公会は過去の歴史を省み、在日韓国・朝鮮人の方々への関わりは、日本聖公会の大切な宣教課題であることを認識させられたのです。その意味で、改めて大韓聖公会の皆様へ感謝いたします。

聖公会生野センターのこれまでの活動を振り返りますと、いつも困難の連続であったと思います。ことに財政的には今もそうですが、ずっと苦しい状況が続いています。それでもよりよく地域の皆さんに仕えていくために新たな拠点を設けるなど、本当に大丈夫と思うような計画も実施できたのは、多くの皆様のお祈りとお支えがあったからです。お支えいただいた皆さまにも深く感謝いたします。

ただ、わたしは改めて思うのです。聖公会生野センターが財政的にも物質的にもまた人的にも何の不足なく豊かで、したいと思うことは何でもできるよ

うな状況だったらどうなっていたのかと。むしろいつも厳しい財政や不足があり苦しみを抱えた小さな活動であったからこそ、地域の皆さんの共感を得ることができ、地域の皆さんと一緒に歩んでいくことができたのではないのでしょうか。聖公会生野センターの働きはいつもぎりぎりの状況でしたが、それでも倒れそうで倒れない、そのしなやかさが賜物であり、また魅力でもあるように思います。

それだけに運営に関わってくださった方々のご苦労はわたしの想像をはるかに超えたものだったと思います。皆さんの情熱と努力があったからこそ今の聖公会生野センターがあるのです。ことにこの30年間ずっと責任者として献身的に働いてくださった呉光現さんには心より御礼申し上げます。

現在の日本社会において、とくにコロナ禍にあって人との絆を結ぶことがより困難になっている方が多くおられます。聖公会生野センターが、これからも神様の祝福の器として地域の皆さんに仕える働きを継続していくことができますよう、皆さまのお祈りとご協力をお願いいたします。

(むとう・けんいち 九州教区主教 日本聖公会首座主教)



韓国教会の歩みから

司祭 アンデレ 松山 健作

私たちのこの世は、神の愛によって創造されたにもかかわらず、差別と嫌悪を連続的に生み出します。神に愛されて創られたことに立ち返るならば、そのような憎しみは生まれえないのではないかと疑問に思いつつも、私たち人間の思いは、そう単純ではないようです。

聖公会生野センターが主のみ心によって建てられ、30周年を記念するとき、神ご自身が差別と嫌悪なき世界を望んでおられることに想いを寄せ、韓国教会の状況をご紹介できればと思います。

韓国では、10月末キョンドン教会（長老会）にて、世界教会協議会（WCC）韓国同行集会の第5回目の礼拝が催されました。礼拝において「差別と嫌悪なき平等な世に向かって」というテーマが掲げられました。

この日、韓国教会のさまざまな背景がある教派から対面、及びオンラインで100名弱の参列者が集まりました。カトリックのチョ・ジンソン修女は「キリスト者の使命は、すべての生命に自由と解放を宣べ伝えることである。差別、嫌悪、分離は、反キリスト的行為である」と言及しました。

礼拝では、韓国社会において苦しんでいる女性、性的少数者、移住民、難民、労働者の声を聴く時間を大切に、多様性が認められ、平等な世の中が志向される祈りと相互の祝福がささげられました。その一文を引用します。

今日私たちは、互いを祝福するためにこの場に集まりました。私たちは神を信仰する、信仰しないにかかわらず、あるいは互いの信仰が異なっても、互いに祝福し合うために集いました。私はあなたを祝し、あなたは私を祝し、互いに祝福することで「異なっても同じように」つながり合います。このように私たちは互いの手を放さず、ともに変化を創り上げるのです。

韓国基督教長老会のイム・ボラ牧師は「私に望まれていることは何か」というテーマで説教を語りました。



祝福をするイム・ボラ牧師と
チョン・ヘジン牧師

(基督女民会)

韓国教会では、牧師を養成する神学校、信仰を育む教会において差別と嫌悪が生み出される温床となっていることが問題化しています。イム牧師は、これに言及しながら私たちを創造された方は、差別と嫌悪なき世界を望まれ、牧師や教会は差別と嫌悪なき世界に向けて声を上げる必要性があると語ります。

あると語ります。

礼拝には、大韓聖公会ジャ・ケオ司祭（龍山ナムムの家）も参加し、愛餐を司式し、一人ひとりが神から愛を受ける存在であることが確認されました。オンラインを通して行うことで、画面上には「差別禁止法を即刻制定せよ」、「キリスト者は、差別と嫌悪に反対せよ」の運動の様子も映し出されました。

さて、韓国教会の歩みを通して、私たちの属する日本の教会、日本の社会はどのように映るでしょうか。神学校、教会が差別と嫌悪を生み出す温床になっていないでしょうか。私たちは神から愛された存在です。一人ひとりに命が与えられ、愛され、尊厳ある存在です。

聖公会生野センターが生野の地に建てられて、30年を経たことを記念し、私たちはこの世において、差別と嫌悪なき平和な世の中を志向するように神から求められていることを再確認したいと思います。なぜなら、神は一つひとつの被造物を愛して創造されるからです。

(まつやま・けんさく 金沢聖ヨハネ教会牧師)

祈り続ける

イサク 寒河江 研司

聖公会生野センターが、1992年から活動を開始され、来年に30周年を迎えられるということで思いを寄せてみますと、私自身が、直接この働きに関わったことがないことに気付かされました。しかし、無知であったり、無関心であったのではありません。

大阪教区連合男子会を通して、その働きが、継続されていることは知らされてきました。修養会で、「聖公会生野センターをサポートしよう」をテーマに呉光現総主事の講演会を実施したり、その後も継続して、「祈りと証しの会」や代議員総会などの集会でお祈りを捧げる機会が与えられています。この継続が、聖公会生野センターが働き続けておられること



を忘れず、関心をもち、憶えていられるのだと思います。祈り続けることの大切さを強く感じます。これからも、いまだに間違った情報による偏見で、差別社会にさらされている悲しい事実を心に留め、その働きのために、祈り続けていきたいと思っています。生野の地で、在日韓国・朝鮮人と日本人とが協働作業する場として、さらに、強く情報を発信していただき、また、その情報を受け取る場を共に作っていきましょう。

(さがえ・けんじ 大阪教区連合男子会長)

聖公会生野センター30周年おめでとうございます

エリザベツ 鈴木 久美子

聖公会生野センターが活動を開始されたのは、私は大阪教区事務所でパート勤務を始めたころでした。教区報や機関誌ウルリムなどを通して、色々な活動の様子を目にする機会がふえました。教会には様々な活動をしておられる聖職者、信徒がおられることを知り、驚きとともに、関心を持って参加してもらおうことの大変さも感じました。

退職して10年が過ぎ、教区の活動からも遠ざかっていった私が、30周年記念事業実行委員会のメンバーにはいることには、肩身がせまい思いをしておりません。

中学生の孫が最近韓国のヒップホップグループ「B T

S」にはまっていて、「大阪の韓国」に行きたいと言っています。所属教会に、コリアタウン通のおじさんが居られ、「いつでも連れていくよ」と言って下さっていますが、コロナ禍でまだ実現していません。

何年も前に、大阪城南キリスト教会で婦人会の会合があり、鶴橋駅前の食堂街で昼食に何を食べようか迷っていたら、任司祭にばったり出会い、「ここで食べるならビビンバですよ。辛さは調節してくれますから」と言われて辛いものが苦手な人も一緒にお店に入ったことを思い出します。孫と「大阪の韓国」を歩き、聖公会生野センターの歴史をもう少し勉強したいと思います。

(すずき・くみこ 大阪教区婦人会長)

クリスマス献金のお願い

「主の平和が皆様と共にありますように。いつも聖公会生野センターの働きを憶え、お支え下さることを感謝致します。私たちは、隣人愛の精神に基づき、生野地域の人々に仕え、人々と共に歩んで参りました。センターの働きは、住民の4人に一人が在日韓国・朝鮮人である大阪生野地域を中心に、日韓教会の懸け橋の働き、またすべての人が大切にされる社会の実現をめざし、事業として在日高齢者や障がい者の居場所、障がい者の美術・音楽などの文化事業と多岐に及んでおります。また地域では行政や地域諸団体と共に「人に

優しい街づくり」に取り組んでいます。

聖公会とのつながりでは、大阪教区在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会、管区日韓協働委員会の働きと協働しています。

これからもさらに地域の中でのネットワーク作りに入力して歩みます、聖公会生野センターの働きが多くの人に支えられていることを感謝しつつ、今後とも皆様のお祈りとご支援をよろしくお願いたします。

2021年 降臨節 理事長 磯 晴久／総主事 吳光現

送金方法

【ゆうちょ銀行（郵便振替）】

口座番号 00910-1-321780 / 口座名 特定非営利活動法人聖公会生野センター

※郵貯銀行以外からご送金の場合

〇九九（ゼロキュウキュウ）店（099） 当座 0321780

口座名 特定非営利活動法人聖公会生野センター

自由献金（ご寄付）は随時受け付けております



- ▼正会員：一口 10,000円（何口でも結構です）
※法人の事業の決定に参加できません
- ▼後援会員A：一口 3,000円（何口でも結構です）
- ▼後援会員B：一口 5,000円（何口でも結構です）
- ▼維持会員：A 30,000円 / B 50,000円 / C 100,000円

※新規に会員になられる方はお名前、ご住所、所属等をご記入の上、郵便・FAX・emailでお送りください。

- ・email : nskkikuno@gmail.com
- ・FAX : 06-6224-7869
- ・郵送 : 〒544-0002 大阪市生野区小路3-11-19

お名前		所 属 ・ 教 会 ()
ご住所 〒		
正会員・後援会員（A・B）・維持会員（A・B・C）		

発行所：聖公会生野センター
〒544-0002
大阪市生野区小路3丁目11番19号
発行人：磯 晴久
編集人：吳 光現

TEL 06-6754-4356
FAX 06-6224-7856
E-Mail nskkikuno@gmail.com
<http://www.nskk.org/province/ikuno>